

県内の避難生活者39人 「心を元気に」伊豆の旅



GW三島が招待 笑顔にも不安のぞく

三島市のNPO法人「グラウンドワーク三島」が、東日本大震災の影響で県内で避難生活を送っている家族を招いた「第七回心を元気にするショートツアー」が二十五日までの二泊三日、同市内などで開かれた。三十九人の親子らが参加し、半年を越えた避難生活の疲れを癒やした。

被災地の親子向けに無償で開いてきたツアーを、初めて県内への避難世帯を対象に実施。各市町や新聞を通じて参加者を募った。参加者は二十三日から、天城ふるさと広場山荘(伊豆市)に泊ま

り、修善寺温泉(同)や河津七滝(河津町)などを観光。三島市の源兵衛川では二十五日、清流への再生を果たした同川の歴史を学びながら、川辺の散策や水遊びを楽しんだ。宮城県石巻市から親

子四人で富士市に避難している南館賢太郎さん(四)は「子ども同士を遊ばせることができ、交流できる機会が少なく、久々に楽しめました」と言い、福島県いわき市から単身赴任先の湖西市へ妻子を呼び寄せた松

川洋一さん(四)は「同じ境遇の人が話したり、交流できる機会がありがたい」と話した。笑顔の一方、今後の生活の心配も。夫と六歳の娘と一緒に福島市から避難中の遠藤真由

た。(酒井健)

源兵衛川で水の生きものを捕まえる家族連れら＝三島市で

美さん(三)＝牧之原市
＝「自宅は(福島第一)原発から六十キロぐらいの場所。帰っても本当に安心して暮らせるのか、子どもを遊ばせられるのか」。

